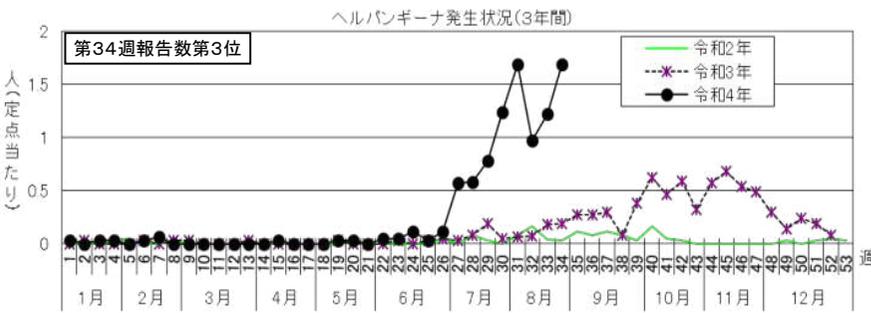
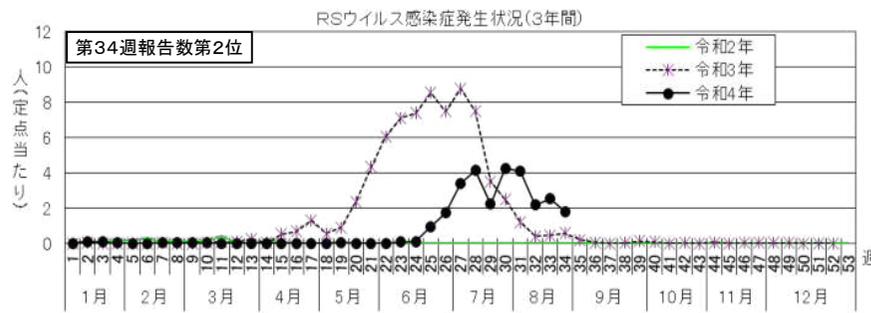
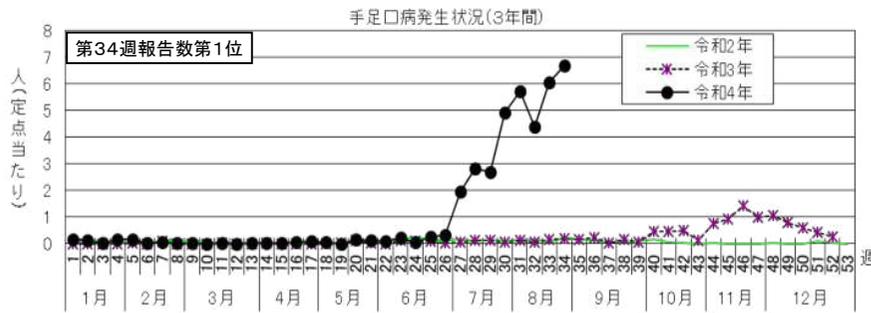


今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和4年8月22日（月）～令和4年8月28日（日）〔令和4年第34週〕の感染症発生状況

第34週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 手足口病 2) RSウイルス感染症 3) ヘルパンギーナでした。
 手足口病の定点当たり患者報告数は6.69人と前週（6.06人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は1.81人と前週（2.53人）から減少し、例年並みのレベルで推移しています。
 ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は1.69人と前週（1.22人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

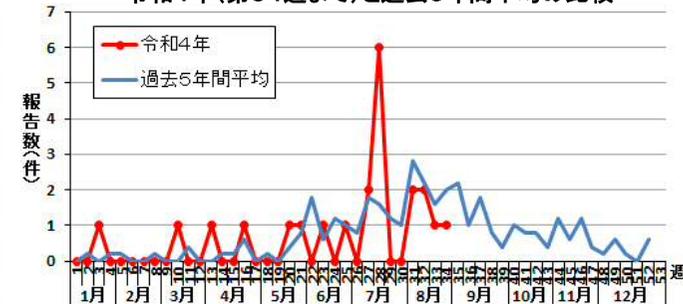


腸管出血性大腸菌感染症に要注意！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌（O157、O26など）を原因とし、激しい腹痛や頻回の水様性下痢、血便などの消化器症状を引き起こす感染症です。感染経路は経口感染であり、汚染された食品や患者の便を介して、菌が口から入ることによって感染します。

腸管出血性大腸菌は、主に牛の腸管内に常在しますが、特に夏場は保菌率が高くなるといわれており、これに伴い感染者数も例年6～9月に増加します。川崎市においても、今年は7月以降に報告数が増加し、第34週（8月22日～28日）までに計22件の報告がありました。感染を広げないために、食品の適切な取扱いや手洗いなどの予防対策を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症発生状況
 -令和4年(第34週まで)と過去5年間平均の比較-



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

食中毒予防対策

生肉や加熱不十分な肉は食べない。



生で食べる野菜は流水でよく洗う。



肉類は中心部まで十分に加熱する。（75℃、1分以上）



肉、魚、野菜で調理器具を使い分ける。



二次感染予防対策

排便後やおむつ交換後、食前の手洗いを徹底する。



おむつ交換は決まった場所で行い、おむつは袋に入れすぐに捨てる。

